

ヒト

第173回 (中部支部 第39回) シンポジウム

「価値デザイン社会」を考える

2021年7月14日(水) 13:15 - 17:00

ライブ配信

モノ

コト

内閣府 知的財産戦略推進事務局より、
「知的財産戦略ビジョン ~『価値デザイン社会』を目指して~」が提唱されています。
近未来の「価値」の考え方・方法論や、実践事例を紹介を通じて、
激変する社会における企業のあり方について学びます。

13:25-【特別講演】



小林 英司 氏

内閣府
知的財産戦略推進事務局
参事官 (産業競争力強化担当)

14:05-【基調講演】



丸山 一彦 氏

和光大学
経済経営学部
教授

14:55-【事例講演】



江里口 真朗 氏

ソニーグループ株式会社
AIOボタックス事業企画部
担当部長

15:25-【事例講演】



下村 正樹 氏

三井物産株式会社
中部モビリティ統括

16:05-【パネル討論】 コーディネーター：古谷 健夫 氏 (株式会社クオリティ・クリエイション代表取締役)
パネラー：小林 英司 氏, 丸山 一彦 氏, 江里口 真朗 氏, 下村 正樹 氏

- 【 定 員 】 オンライン300名
【 申込締切 】 2021年7月7日 (水) (ただし、定員になり次第、締め切らせていただきます)
【 参加費 】 会員※ : 4,400円 (締切後4,950円) ※賛助会員は1口あたり5名まで会員扱い
非会員 : 8,800円 (締切後9,900円)
準会員 : 2,200円
一般学生 : 3,300円 すべて消費税を含みます。
【 申込方法 】 (一社)日本品質管理学会ホームページより申込みをお願い致します。
https://jsqc.org/173_chuubu_symposium/

【特別講演】



小林 英司 氏

内閣府
知的財産戦略推進事務局
参事官(産業競争力強化担当)

価値デザイン社会の実現に向けて

2018年6月、知的財産戦略本部で『知的財産戦略ビジョン～「価値デザイン社会」を目指して～』が公表され、我が国が目指す社会像として「価値デザイン社会」が提唱されました。知的財産戦略ビジョンで、価値デザイン社会は、経済的価値にとどまらない多様な価値が包摂され、そこで多様な個性が多面的能力をフルに発揮しながら、「日本の特徴」をうまく活用し、様々な新しい価値を作って発信し、それが世界で共感され、リスペクトされていく社会と定義されています。本講演では価値デザイン社会に加えて、各個人や各組織が将来の価値を生み出す仕組みである「価値創造メカニズム」をデザインするためのツールである「経営デザインシート」についても御紹介させていただきます。

【略歴】1997年特許庁入庁。審判官・審査官（特許）として、社会基盤分野の審判・審査に従事。また、知財制度の改正、知財活用に係る施策及び審判制度の運用などについての企画・立案担当などを経て、2017年4月から、地域金融機関による企業の成長支援を後押しする「知財ビジネス評価書・知財ビジネス提案書」の提供（知財金融支援）などの地域・中小企業知財支援を担当。2019年7月より現職。

【基調講演】



丸山 一彦 氏

和光大学
経済経営学部
教授

イノベーションを創成する新しい時代の思考

今日、多くの企業・組織で顧客価値創造活動が行われていると言えます。しかしその実態は、既存事業における顧客価値創造活動（特にValue=Function/Costの追及アプローチ）が殆どであり、新規事業を創発する顧客価値創造活動が、全社・全部門で行われているところは少ないと言えるでしょう。その一方で、製品（モノ）の使用を通じて得られるサービス全体（ユーザー体験）の価値（コト価値）思考を用いて、新たな価値次元（イノベーション）を創発する重要性が増しています。このようなギャップにより、コト価値やイノベーション創発の考え方（用語含む）を多くの企業（特に製造業）が十分に取り込めずにいることが指摘されています。本講演では、「サービス・ドミナント・ロジック（Service-Dominant-Logic）」という新たな考えた方の視座で、顧客との「価値共創（Co-Creation of Value）」を実現するために、「デザイン思考（Design Thinking）」というアプローチについて、市場戦略や新商品企画に役立つ解説や提言をおこないます。

【略歴】成城大学大学院 経済学研究科経営学専攻博士課程修了。博士（経済学）。成城大学経済研究所研究員、明治大学理工学部講師、新潟大学大学院自然科学研究科講師、富山短期大学経営情報学科教授を経て、現在和光大学経済経営学部経営学科教授・同大学院社会文化総合研究科ビジネスコース教授。

【事例講演】



江里口 真朗 氏

ソニーグループ株式会社
AIOボティクス事業企画部
担当部長

必要な移動を楽しい移動へ

ソニーグループ(株) AIOボティクスの「必要な移動を楽しい移動へ」を目指しているSC-1というプロジェクトのご紹介。人の目を超えたカメラとモニターを使った商品の企画とサービスの企画を行っています。企画品質の向上にむけた1つのやり方として、SC-1の事例をもとにどのようにしてその企画がうまれたのか、プロセス、気づきなどに触れる。また、自動運転時代に入突するが、今のままでは、運転者は自動運転にもかかわらずリラックスすることができない状態にある。楽しい移動を提供するためには、直面する責任問題の整理も必要です。センサーや通信をつかった遠隔運転や遠隔監視の活動もご紹介します。新しい企画と商品の品質は、一見真逆になるような位置に見えますが、それをクリアして初めてヒット商品が生まれることという点にも触れたいと思います。

【略歴】中央大学 経済学部卒業。ソニー(株) 携帯電話商品企画部 入社。ソニーとエリクソンの合併会社 ソニーエリクソン スウェーデンに赴任。帰任後、ソニーモバイルコミュニケーションズ イノベーションプラニング統括部長。ソニーグループ(株) AIOボティクス 事業企画部 担当部長

【事例講演】



下村 正樹 氏

三井物産株式会社
中部モビリティ統括

三井物産における価値創造

商社における収益の源泉は、この30年でTradingから事業投資に変遷しましたが、新規投資した事業が花開き十分な収益を上げるまでには長い時間を要します。かかる状況を打破すべく、三井物産では新本社移転に伴い、Work-Xと称する取組を行いました。人の行動はその人を取り巻く「場」の力によって影響を受けるとの前提に立ち、多様な「個」が集まり、「偶発的な出会い」や「自発的なコラボレーション」を通じて、新たな挑戦と創造を生み出すことを目指しました。信頼出来る「リアル」な情報・経験・人脈は更に価値を増すと考え、「知的化学反応」を巻き起こし、変化と潮流をつくり、ビジネスをつくり、価値創造を目指しています。

また「Moon Creative Lab」という別組織を作り、多様な専門性を持つ三井物産グループの全社員から、オープンイノベーションプラットフォームシステムを通じて、アイデアを発掘し、それを具現化する為の機能と環境を提供する事で、世の中に新しいビジネスを創出する取組を行っています。

【略歴】名古屋大学法学部法律学科卒業後、三井物産株式会社入社。中国、米国、インド、フィリピンに約16年間駐在し、国内外子会社、関係会社の社長、副社長、取締役・監査役を歴任後、2020年2月より三井物産株式会社中部モビリティ統括。一橋大学国際企業戦略科博士課程中退（経営法修士）Emory University Goizueta Business School卒（M.B.A.）名古屋大学 未来社会創造機構 客員教授